

平成25年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 有功東小学校
校長氏名	宮本 茂
作成日	平成 26年 2月 28日

1 教育目標

自らの世界を切り拓こうとする主体的・創造的な子どもを育成する。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ○信頼される学校と学校運営を柱として、保護者との信頼関係をいっそう深める。 ○保護者や地域の人材をより一層活用し、地域や保護者に学校・学級を開くとともに、積極的に学習を公開していく。 ○信頼される学校を学校運営方針に保護者との信頼関係をさらに深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動を一層充実させ、活動を通して子どもたちに感動を持たせ、豊かな感性を育む。 ○「いのちの日」を定め、いじめや命の大切さについて考える。また、道徳教育等を充実させ、心の教育を推進する。 ○読書の大切さを知らせ、読書活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ともに学び合う学習、問題を一緒に解決する学習等をめざし、学ぶ楽しさや喜びを実感できる授業を創造する。 ○確かな学力の定着、向上をめざす。 ○家庭と連携し、家庭での学習習慣を身につける。

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや学年・学級だよりを通じて学校の取組を保護者に知らせるとともに、授業参観(年間5回)や学校行事などで保護者の参観を呼びかけ、子どもたちの様子を知ってもらった。 ・生活科の学習を中心に、地域の方々を招いて学習に参加いただいた。地域の方との活動や交流を通して、学校や子どもたちの様子を知っていただくとともに、子どもたちにも地域の良さやすばらしさを学ばせる機会となった。 ・和歌山市の教科等研究会と連携し、教材研究や授業研究に取り組み、研究発表会を通して本校の取組を発信することができた。 ・地域だより「六十谷の子」を通して毎月地域に情報を発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科や総合的な学習の時間、また、社会科の学習で、外部の人材を招いたり、見学や体験を行ったりした。多様な体験を通して、学ぶ楽しさを感じるとともに、「学校が好き」「自分も仲間も好き」と感じることができる子どもを育てようとしてきた。 ・各学級のマイカリキュラムによる個性豊かで特色ある学習展開、学級経営に取り組み、子どもが活躍できる場や機会をつくらうとした。また、集会で学級ごとの取組を紹介する機会を設け、交流を図った。 ・いじめについてのアンケートを実施して実態を把握するとともに、道徳の時間や各教科の学習で命の大切さや人を思いやる心を育てようとした。 ・休憩時間にも図書室の本を貸し出したり、「うちどくコーナー」の本を充実させたりして、読書できる環境づくりに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科、総合的な学習の時間で育てたい3つの力について、授業実践と授業研究(年間15回の研究授業を実施)と協議を重ねながら充実を図ってきた。 ・校内研修の充実と授業研究を通して、教師力、授業力の向上とともに子どもたちの学習規律の確立に努めた。 ・どの学習でも、体験的な活動、話し合う活動、かく活動を大切にして取り組んできた。また、学習の課題や問題を明確にし、子どもたちが見通しをもって学習に取り組めるよう心がけた。 ・学習内容の定着させるために、補充学習にも取り組んだ。
取組の結果と課題【G】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケートで、「有功東小学校に子どもを通わせてよかった」と回答した保護者が、全体の91.7%にのぼった。特に、6年生が95.5%と高く、保護者と学校の連携、学校・教職員に対する信頼関係が築けたものと考えられる。 ・アンケート結果から、学校の取組状況をさらに発信し、保護者の理解を得るよう努める必要も感じた。 ・授業参観の保護者の参加率は高いが、学級懇談会への出席は全体的に少ない。育友会とも連携しながら、積極的な参加を呼びかけたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のアンケート結果では、「学校が楽しい」91%、「友達となかよくする」が94%あり、子どもにとって学校が心の安らぐ場になっていると判断できる。 ・ゲストティーチャーの方から、子どもの表情が良く、大変意欲的であるとの評価をいただくことが多かった。人との出会わせ方、出会う場などをより一層工夫し、人から学ぶすばらしさを感じ取らせたい。 ・8月に「うちどくコーナー」に新しい本が入り、2学期以降の貸し出しがそれまでの2倍以上になった。新しい本、子どもたちの興味や関心に沿った本を今後も導入していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の研究発表会等で、参加していただいた方から子どもの姿について評価をいただくとともに、より質の高い取組をめざした意見もいただいた。 ・子どもたちへのアンケートでは「勉強がわかる」と答えた子どもが87.3%で、前年度より2ポイント高くなった。より高い数値をめざして授業力を高めたい。 ・全国の学力調査や和歌山県の到達度調査の結果から、本校の学力は全国や和歌山県とほぼ同じだが、国語に関してやや課題が残った。国語の対する興味や関心を高める学習の充実をめざす。また、前年度課題であった無解答率が全国や県の平均よりもとの学年も低かった。粘り強く取り組む姿勢が育ちつつある考える。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くのゲストの招聘と地域人材の開発していく。また、地域人材リストの作成を継続し、資料として残していく。 ・学校から発行する各種のたよりやホームページの充実を通して、地域や保護者に取組を知らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちへの各種アンケートの結果から、規範意識の低さが見えてきた。「学校のきまり」を見直し、児童会とも連携しながら子どもたちの意識を高めていきたい。 ・言葉遣いや何気ない振る舞いで周りの人を傷つけてしまうこと、人の温かさを実感しにくい子どもに対する指導・支援の継続に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の充実をめざして、家庭学習の手引きの作成をめざしていたが、本年度保護者に配布することができなかった。次年度早い時期の配布に努めたい。 ・家庭環境や学力に課題のある子どもへの支援の充実をめざす。

3 その他の課題

・地域に開かれた特色ある学校として生活科・総合学習の研究と豊かな環境・子どもの居場所づくりに取り組んできたが、児童数の減少や教職員の異動等で、新たな時代に移行しつつある。教職員がチームとして連携し、「地域の学校」としての役割果たせるよう新たな学校経営について校長が方針を示し、全教職員で学校運営にあたるが必要になってきている。